



添削研修 過去問演習が重要に

物 理

第2チャレンジで選抜された国際物理オリンピックの日本代表候補者に対する研修は、9月中旬に開催される2泊3日の秋合宿に始まり、12月下旬、3泊4日の冬合宿を経て翌年の3月下旬、3泊4日の春合宿で、8人のアジア物理オリンピック日本代表および5人の国際物理オリンピック日本代表が選抜される。合宿以外にも、代表候補者には、9月から2月まで6回の通信添削による理論研修、数回の実験研修が実施される。物理オリンピックの国際大会では、日本の大学1~2年生レベルまでの物理を前提に、創造力を発揮して解く必要のある問題が出題されるた

め、大学初年級で学習する物理をしっかりと身に付けさせ

ると同時に、最近発展している興味深い物理を加味した研修が行われる。出題問題には主にオリジナルのものが用い

られ、3月までの代表候補者の研修は、単に物理オリンピックで高得点を得るためのものではなく、候補者間の人的つながりをつくると同時に、大学入学後の学習と研究をも見据えたものである。

5月下旬に開催されるアジア物理オリンピック大会に向けて、8人の日本代表に対する通信添削による理

論研修が4月初頭より3回、アジア物理オリンピック大会後、国際物理オリンピック大会に向けて5人の日本代表に対する理論添削研修が2回程度実施される。また、この間、実験添削研修が数回実施される。4月以降の日本代表に対する研修は、3月までの代表候補者に対する研修に比べ、実践的になる。従って、添削研修に用いられる問題は、物理オリンピックの過去問である。実際の大会で好成绩を挙げる上で、この過去問演習は重要な役割を担っており、問題の物理的内容に関すること他、高得点を得るための答案の書き方の指導にも及ぶ。

最後に、物理オリンピックに出発する直前、1泊2日の合宿を東京で実施して、代表選手の大会への意識を高める。



物理オリンピック
国際大会に向けて
の理論試験

(杉山忠男・物理オリンピック日本委員会・副理事長)